

モンゴル遊牧民の幼児教育

チンギス班 新川 本嶋 大場 中牧 石井 吉田

モンゴル遊牧民の子供が
どうやって幼稚園に通っているか知っていますか？



リサーチテーマ

- いろいろな形の幼児教育がある中、遊牧民の子供たちに一般的な幼稚園は必要なのか。
- 代替的な形の幼児教育は遊牧民の現状・“文化”にあっているのか。



0. index

- I 一般的な幼児教育とモンゴルにおける幼児教育
- II 問題意識とリサーチテーマ
- III 現地フィールドワーク概要
- IV 遊牧生活で得られるもの
- V 遊牧生活では不足していた点を補う就学前キット
- VI まとめ
- VII おわりに 一般的な支援に関するお話
- IX 参考文献

I 一般的な幼児教育 と モンゴルにおける幼児教育

幼児教育の重要性

- 知能、感情、人間関係が著しく発達する時期
- 心身・知性の健全な発達を促し、社会性を養う
→社会の一員としてよりよく生きるための基礎を獲得する

⇒将来充実した人生を送るうえで不可欠

(文部科学省)

幼児教育で身につけるべき能力

- 身体能力
- 社会性
- 自我(自尊心)
- 自主性
- 学習意欲(好奇心)
- 学習習慣

現状

モンゴル遊牧民の幼児教育について

- 多くの親は、子どもをソムの幼稚園に通わせることを望む
- インフォーマル教育（幼稚園の代替）
 - a. 教育キット
 - b. ゲル幼稚園
 - c. モバイルティーチャー



背景

- a. 現在、モンゴルは遊牧社会から先進社会への移行期
→親は子供に遊牧民を継いでほしくない
高い教育を受けて立派な職についてほしい

- b. 小学校は幼稚園での就学前学習を前提とした義務教育

⇒教育の素地となる幼児教育は不可欠

しかし・・・

**幼児教育が必要とされているにもかかわらず
多くの遊牧民の子どもは、幼稚園に通えていない**

問題点

- 幼稚園に通えない子供の学習面での就学前教育の不足

→ 小学校での勉強についていけないことがある

* 小学校も教師不足のため、成績の悪い子に対するフォローが少ない

考える解決策

皆が幼児教育を受けられるようにするため...

➤ソムの幼稚園の収容力増強
←政府やNGOの盛んな支援

• インフォーマル教育の普及



Ⅱ 問題意識

遊牧民にとっての幼稚園の利点

- 就学前学習
- 託児所
- 人間関係を学ぶ場
- 遊牧民の伝統文化を伝える



遊牧民にとっての幼稚園の欠点

- 自宅から遠い
- お金がかかる
- 教員の質が悪い

問題意識

現地調査を行ったうえで.....

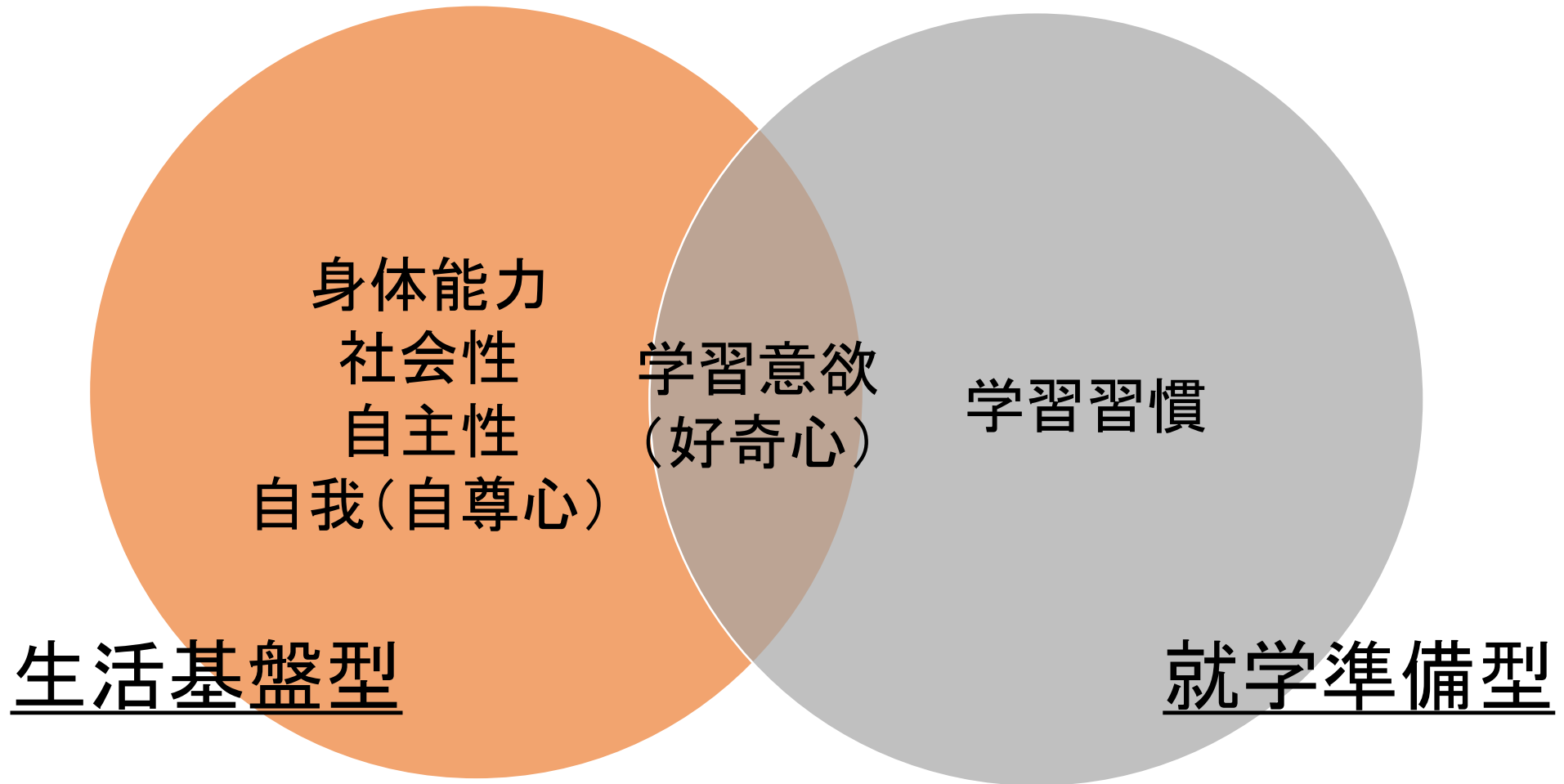
- はたして幼稚園の収容力増強は
今の遊牧民の実情に最も適した支援で
あるのか？

Ⅲ 現地フィールドワーク概要

幼児教育で身につけるべき能力

- 身体能力
- 社会性
- 自我(自尊心)
- 自主性
- 学習意欲(好奇心)
- 学習習慣

幼児教育で身につけるべき能力



仮説

- 生活基盤型教育で得られる能力は、幼稚園に行かなくても、普段の遊牧生活(環境・しつけ)で得られるのではないか？
- 就学準備型教育で得られる能力は、幼稚園に行かなくても、代替教育で得られるのではないか？

現地フィールドワーク概要

- ホームステイ

場所:ズンバヤーウラン

期間:2泊3日

概要:代替教育を行っている遊牧民家庭2軒にホームステイし、仮説を検証



- インタビュー

場所:ズンバヤーウランの学校の寮

対象:遊牧民の子供(小学生)35人、母親5人

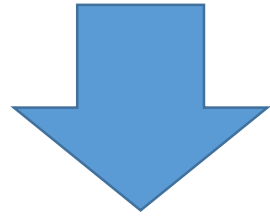
概要:遊牧民に対しインタビューすることにより仮説を検証



IV 遊牧生活でも得られるもの

モンゴルの幼児教育

・モンゴル→子供多い・外で自主的に遊ぶような文化と環境



家庭が生活基盤型教育的な環境に
一方で勉強面での教育は情報へのアクセスの低さによって不十分に

遊牧民に適した幼児教育（環境）

★モンゴルの遊牧民の環境

子供複数

何世代かで一緒に生活（もしくは親族などと）

大自然の中での遊牧生活

自由放任なしつけ（後述）

⇒生活基盤型教育は普段の生活で行われている



遊牧民に適した幼児教育（環境）

遊牧民が代々受け継いできた生き方



生活基盤型の幼児教育が自然と行われるような環境



身体能力・自主性・社会性

（幼児教育に求められる要素）

が、自然にはぐくまれるような土壌

自主性を育む遊牧民のしつけ

★調査方法

※ズンバヤーウランにて

- 遊牧民の親5人への聞き取り調査
- 遊牧民の子供(小学生)35人との対話

➡ズンバヤーウランでの、しつけと子供の自主性に関する傾向をまとめました。



良くも悪くも自由放任

- 泣いても放置
 - 自主的に手伝うまで、自分で聞いてくるまで待つ
 - 危険なことを止めさせようとしなない
-
- 小学生との対話
 - ➡何か強制させられることのある子はいなかった。

※衛生面や、愛着理論の観点からは少し問題が残る



怒らない

- 何か失敗しても怒らない。(父親がたまに怒る)
- 小学生への質問票調査の結果
 - ➡ 7割程が怒られた経験なし。
 - 2割程が兄弟に悪いことをして怒られた。

☆逆に、積極的にほめる！



遊牧民のしつけから生まれるもの

- 何でも自分でできる。⇒主体性・積極性
- 自分でやらないといけない⇒自分で強く生きていく。自立性
- 褒められる⇒自信をもつ

(PHPのびのび子育て、アドラー流子育て法)

※日本の過干渉...主体性の減退、大きな子供の発生に繋がっている？(モンゴル人、精神科医佐々木正美先生)

自主性の例～ホームステイした家庭で～

- トウメン(兄)が妹二人の世話をする。
- 兄が赤ん坊が泣いた時にあやしていた。
- 兄妹二人とも自主的に親の手伝いをしていた。
(※日課になっている可能性がある)

自主性の例～小学生の話～

- 小学生との対話の結果
 - ➡全員が親の手伝いをすると回答
 - 8割方が自主的に行っている。
 - ※非常に誇らしげに答えていた。



遊牧民に適した幼児教育

- では今までの遊牧民の生活に足りなかったものは何か??

- 学習習慣・学ぶ意欲の形成といった学習面

V 遊牧生活では不足していた点を補う
就学前キット

遊牧民に適した幼児教育

- 小学校が幼児期の教育を前提としている以上、学習面でも幼児教育を行う必要がある。



しかし幼稚園に通うには、コストや距離など様々な問題が存在



この解決策としての教育キット

Save The Childrenの教育キットプロジェクト

- 教育キット活動
→モンゴル国内31の県で。
今回調査を行ったウブルハンガイ県では
10のソムで活動が行われている

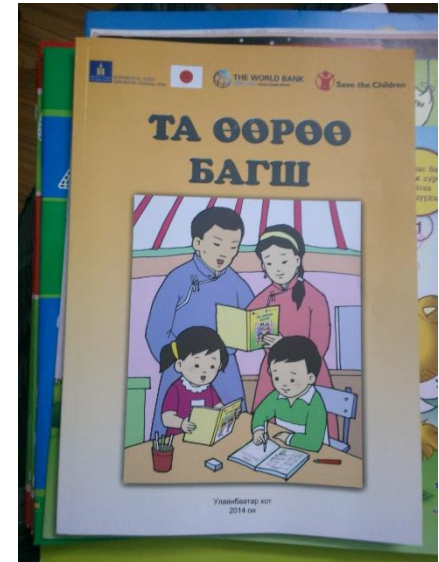


Save The Childrenの教育キットプロジェクト

- Community Education Center(CEC)を当該地域のソムに配置
ここで教育キットの配布を無料で行う

・キットの中身

- 1 テキスト
- 2 取り扱い説明書
- 3 CD



教育キット活動

- 親は定期的にソムを訪れ、
使用済みキットの返却、次のキットの回収を行う

教育キット活動

- ・事前のパイロットプロジェクトで遊牧民に実際に使ってもらった感想を聞いて改良
- ・ニーズ調査などはしていないが、遊牧民の子供の現状を鑑みた当然の要請としてスタート
- ・キットの使用開始に当たっては親と担当者が契約を結ぶ

教育キット活動

- ・CECでキットを配布
- ・親への使用法講習会
- ・キット使用者の学力向上診断テスト
 - 診断項目は表現力、想像力、歌の歌い方など様々

- 実際に学力の向上が確認される
 - 成績の良かった子供は表彰

ズンバヤウラン村での調査

- CEC(小学校内)を訪問

- 2002年より

Save The Childrenの活動が
始まった



ズンバヤウラン村での調査

- 25種類のキット
- もともとは幼稚園の収容力不足から始まった

Homestay in ズンバヤウラン(インタビュー)

- 質問項目

1.キット使用で子供の学力向上は見られたか

→歌を歌う、昔話を覚えるなどの効果があった。思考力に効果がみられる。

2.継続的にこなすことができているのか

→できている(ちゃんと2週間で返却できている)

Homestay in ズンバヤウラン(インタビュー)

- 質問項目

3.キットの使用に割く時間が遊牧生活の負担となっていないか

→あまり負担になっていない。(毎日15分程度)

4.子供はどのくらいの頻度でキットを使って遊んでいるのか

→毎日

キットの良い点

- 距離的に幼稚園に通えない子供に、幼児教育の機会を与えている
- 子供の想像力、表現力が飛躍的に伸びた
- 親に幼児教育の大切さを伝える副次的効果

キットが残す課題

- ・他の子供と遊ぶ機会が少ない
- ・幼稚園のようなプロの先生がいない



親の幼児教育に対する知識不足
(特に精神面の成長に関する知識不足)

今後の対策

- ・他の子供と遊ぶ機会の少なさは、遊牧民の生活ではそれほど問題にはなっていない
- ・親の教育に対する知識不足には、講習会などを通じて「幼児教育の意義」などを伝えていくべき

キット活動

- ・遊牧民の子供の認知的側面の向上に非常に大きな役目を果たしている
- ・コストや距離といった幼稚園の抱える問題も克服している
- ★就学準備の要素を満たしていると言える

VI まとめ

遊牧民にあった幼児教育

- 環境、しつけによって補えるもの
→ 身体能力・自主性・社会性(生活基盤型教育)
- 教育キットによって補えるもの
→ 学習習慣・学ぶ意欲の形成(就学準備型教育)

遊牧民にあった幼児教育

- 遊牧民の幼児教育支援として急務なのは、費用のかさむ幼稚園の収容力増強よりも、教育キットの拡大運動ではないのか？

VII おわりに

支援の在り方

- 社会の移行期に位置している国の支援に関しては、現先進国の価値観に基づいた支援を行うより、現地の現状にあわせた柔軟な策を講じるべきなのかもしれない....

国内訪問

- 浅沼茂 教授 [東京学芸大学](#) 教育学部 教育学講座
- 浜野隆教授 お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科
- Save the children japan
 - ➡**モンゴルの幼児教育、伝統教育について。**
- トヤサン
- 富田 貴代子 お茶の水女子大学出身

訪問先 モンゴル

- Save the children
- Unicef Mongolia
 - 小学校
- Pre school
- ゲル幼稚園(ウブルハンガイ県)
- 遊牧民(ウブルハンガイ県、ウランバートル、ナライヤetc.)

